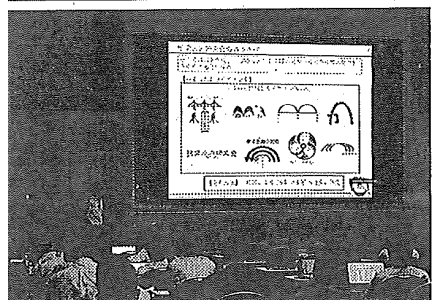


若手技術者定着の 資料作成など紹介

橋梁三力研究会
初の技術講演会

建設コンサルタツツ協会（建コン協）九州支部、プレストレスト・コンクリート建設業協会（PC建協）九州支部、日本橋梁建設協会（橋建協）九州事務所の若手技術者らでつくる「橋梁三力（みりよく）研究会」は4日、福岡市中央区の福岡国際会議場で初めてとなる技術講演会を開催した。写真。オンライン含めて約240人が参加。同研究会のワーキンググループ（WG）による入職者の確保に向けた広報や、若手技術者の定着や育成のための資料作成などの取り組みを紹介



した。同研究会は情報共有による業務効率化、技術力の向上、橋梁建設に関わる入職者の確保・定着を目的に2018年に発足し、広報、新技術、技術資料作成、留意点作成の四つのWGに分かれて活動。これまでコロナ禍で研究の成果を発表する場がなく、今回が発足後

初の発表の場となった。冒頭、橋建協九州事務所の池野隆雄副所長が「人材不足、資材価格の高騰など建設業界を取り巻く環境は厳しさを増し対策は待ったなしの状況。講演会が今後の活動のヒントとなり仕事の向上の一助となれば」とあいさつした。

広報と新技術WGは若手技術者向けの現場見学会や、一般（中学生以上）向けに未来の橋梁の形など橋梁で社会課題の解決のパンフレットを作成、技術資料作成WGは若手技術者の設計・工事で活用しやすい資料として、若手技術者にアンケートを実施し疑問に答える形で99件のQ&Aの回答資料を作成したことなどをそれぞれ説明した。

留意点作成WGは鋼橋では若手をターゲットとした手戻りに防止ツールを整理、PC橋では中小規模の設計の留意点などをまとめた。

このほか静岡県交通基盤部建設政策課未来まちづくり室の増田慎一郎室長と九州地方整備局八代復興事務所副所長による講演があった。